

エンカウンター (ENCOUNTER)

第 195号

平成30年7月20日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 080-1232-0905

<http://encounter.agape.gr.jp/>

カウマン夫人著『日の出に向かって』より (7)

7月1日

信ずる者はあわてることはない。(イザヤ 28・16)

夕方になって、南のそよ風が静かに快く、穏やかに、まるで幼な
子のかわいらしい指がなでるように吹いてくると、すべての人を愛
する思いに満ち溢れ、すべての人に平安があるようにとの願いが湧
き上がってきます。

そして、それはどんな困難をも、また自分を悪く言った人のこと
を覚えていて、いつか仕返しをしてやろうと思っていた悪意をさえ
も、全く溶かし去ってしまいます。つまりそれは、人に平安を与え、
また従順さを与えるので、たとえ自分が損をすると分かっている、
誰に対しても好意を示すことをいやだと思えなくするのです。

小鳥や動物たちは連れ添い、樹木や生き物たちは、すべて生き生
きとした新しい命を得て増え広がり、そして美しい夏がやってきま

す。それはすべて強壯剤のような役割を果たして、人の心を元気づけます。それは、親しい友人関係を更に明るいものとし、まるで新しい友達を得たかのようにしてくれます。そして人に、その創造者の御手の数々の業を見せてくれるのです。すなわち、もし彼が眞の農夫の心を持った人であるならば、初夏の柔らかく快い風が吹き始める時、彼は人々が理解し得ないような神の偉大さを垣間見るのです。

アーネスト・A・ヴェント

7月5日

だれが小さい事の日をいやしめたのか。(ゼカリヤ 4・10)

幸福な人生とは、海外旅行や楽しい休日にあるのではなく、道端に隠れてしまって、やっと気がつく程の小さな一群のすみれの花にあるのです。そして、神の平和と愛を心の中に持っている人だけが、その小さなすみれの花を見ることができます。

そういう人は、小さな喜びのくりかえし、霊的な小さなひらめき、日毎の務めの上にそそがれる陽の光などの中に神の愛を見出します。永い間、私は自然や新約聖書に親しんできましたので、毎日が益々一層楽しくなるばかりです。 エドワード・ウイルソン

人生は、太陽に向かっているひまわりのようではなく、一部は日陰にあり、一部はひなたにあるすみれのようなものです。ちょうど真昼があるように、真夜中がありますが、真夜中はすべて真昼へ向かう道程なのです。

砂漠の砂のように渴いた人生も

ささやかな愛、ささやかな信頼

ちょっとした感動、一瞬の夢があれば

山の流れよりも新鮮

7月6日

あなたは彼を驚かせられる。(詩篇 21・3) (ウェイ訳)

愛する人よ、まずお聞きなさい

泣いたり、いら立たないようにしなさい

どんな日にも、誰も知らない明日があります

あなたの心を元気づける日の出があるのです

天が地に臨む様子をご覧ください

道に沿って長く歩き続けるのです

ひきがえる程の大きな金塊を見つけるでしょう

窮地さえも、最良の友があなたにほほえみかける

もっと素晴らしい場所へと変えられます

わが魂よ、聞きなさい

なぜあなたは、いらだっているのですか

明日という一日があるではありませんか

誰にもまだ来ていない明日という日が！

——ベシー・L・カウイーの90歳の年に詠まれた最後の詩——

あなたは、過ぎ去った過去を変更することはできない。しかし、
未来を思うことによって、全く素晴らしい現在を破壊してしまうこ
とがある。

7月8日

預言がなければ民はわがままにふるまう。しかし律法を守る者は幸いである。(箴言 29・18)

現代の人が引退して死を迎える年頃に、アブラハムはカルデアのウルからカナンまで旅立ちました。またモーセは 80 歳の時、83 歳のアロンを伴ってイスラエルの民が…釈放されるように、エジプト王パロと闘ったのです。ヨシュアは 85 歳の時、彼の軍事的征服を終えました。またパウロは 70 歳で自らに与えられた目標に進み、堂々と彼の最後の書簡において、「私は戦いを立派に闘いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守り通した」と歌い、喜びつつ「今や義の冠が私を待っているばかりである」と、つけ加えました。

これらの人々の人格と業にならうことによって、すべてのことが私の中に貯えられ、私の努力をふるい立たせ、豊かなものにしてくれます。それは過去だけの事だったのでしょうか。パトモス島の聖ヨハネが時間の制限を越えて聖なる都市、すなわち新しい国と命とを見たように、私に未来の夢を見させてください。

若さを保つ唯一の方法は、恵みの中で老いることである。年齢には、それぞれ何かの美しさがある。あなたは自分が年老いていくという事実と争わないで、それを有効に用いよ。

7月9日

脇間は、宮の周囲の各階にある突起につれて、階を重ねて上にいくにしたがって広くなり、宮の外部の階段が上に通じ、1階から3階へは、2階をとおって上るのである。(エゼキエル 41・7)

老年という冠を頂く人のことを、ゆっくり坂を下るようだと、なぜ
いうのですか。

彼等の上の高き所には、なお上に来るようと招いておられる方が
立っておられるというのに、愛を導き手として生きた人生は、決して
死と暗黒への悲しい下り坂ではありません。そうではなく、絶えず
丘に向かって登る道であり、頂上に立つ度に広い視野が開かれる
のです

巡礼者たちの旅は、いつも上に向かう道だけです。たとえどんなこ
とが起こっても愛と喜びに満ち、信仰の一層強い迫りを感じて、主
が近くにおられることを知るのです。

主の愛が巡礼者たちを先導するとき、歩みが乱れ、目がかすむかも
しれません。しかし主は、どんなため息も速やかに聞きになり、
どんな苦痛も御存知なのです。

巡礼者たちの背後は、すべて急勾配の岩山です。主はその道をなだ
らかな斜面に沿って導かれます。もう一步さらに上へと連れて行っ
て下さり、彼らに全き日の喜びを見せて下さるのです。 M・H

7月11日

あなたの平安は、あなたの年と共に増し加わるであろう。

(申命記 33・25)

時計工によって作られたばかりの小さな置時計が、彼の物置部屋の棚の上に置かれ、その周りに二つの古い時計が、やかましくカチカチと時を刻んでいました。…

「君はただこの一瞬に一回、時を刻まなければならないだけさ。どうだい、簡単な事じゃないか。そうすりゃあ、もう一回だって同じくらい簡単さ。そしてずっと続けりゃあいいんだよ」。…

なるほど、もしクリスチャンたちがその年を数えずに、その一時一瞬だけを大切に生きるとするなら、どんなに素晴らしいことでしょう。「日ごとに」、すなわち一日一日が「主の祈り」の範囲なのです。「一日の苦労はその日一日だけで充分である」と主はおっしゃいました。そして「あなたの力はあなたの年と共に続くであろう」とは、4千年このかた常に新しい主の約束なのです。

A・B・シンプソン

未だかつて誰も、その日の重荷の下に沈んだ者はいない。その重さが私たちに堪えられなくなるのは、明日の重荷が今日の分に加えられるときだけである。…

7月15日

わが望みは神から来るからである。あなたの望みは、すたらない。
(詩篇 62・5、箴言 23・18)

いつか、栄光の朝が来る。でもそれはいつだろう

ああ、だれが言えるだろう

その日、そそり立つ山が平地になり

かわいた地は雨によって潤おされ

真鍮の門はすべてこわされ

鉄格子は造り変えられ、星へのはしごとなる

でこぼこの土地は平地となり

曲がった道は真すぐになる

忍耐の心をもって待つことのできる人にとって

これらの事は神の決められた日に成就する

その日は、明日でないかもしれない

いや、明日であるかもしれない

神が光の中で語られたことを、闇の中で疑ってはいけない。

7月17日

「きょう」という日のうちに、日々、互いに励まし合いなさい。
(ヘブル3・13)

地上の日々はいつも暗すぎます。事実を並べたてて、暗さを広げる必要はないのです。その代りに、私たちはどんな機会をも逃さず、人々に励ましを与えるべきです。ジョージ・マシュー・アダムスは、「励ましとは魂にとっての酸素である」と言っています。キリスト者の人格に対する実際のテストは、彼が身につけている「人となり」です。私たちの生活は、喜びとキリストにある生活への感謝で輝かされるべきです。そうするなら、人々は私たちの態度によって励まされるのです。

7月19日

敵は彼をだますことなく、悪しき者は彼を卑しめることはない。
(詩篇 89・22)

祈りの中で静かな心を求めましょう。祈りは、底知れない地下から湧き上がる泉のように、私たちの内から湧き上がらなければなりません。……

困難の時、静かにしていなさい。あなたの敵はあなたを打ちのめそうと計っています。彼らはあなたの強い確信をあざ笑うでしょう。しかし、あなたは、神の声を聞きませんでしたか。「これが道である。あなたはこれに歩め」。敵がどこから来ようとも、それに向かわれるのは神ですから、神にゆだねなさい。神はあなたの岩であって、岩は動かされることはないのです。神はあなたの高きやぐらであって、高きやぐらは洪水に襲われることはありません。あなたはあわれみを求めますが、あわれみは神に属するものです。狼狽して、あちこちかけずり回ってはいけません。ただ静かに待ちなさい。あなたの魂を静めなさい。ちょうど主が、あのカルバリとゲッセマネにおいて、その友の恐れを沈められたように！

祈りとは、あなたの内にある空しさから、神の豊かさへと導く水路の門である。

7月29日

悩みの日に私を呼べ(詩篇 50・15)

ある織物工場のすべての機械の前の壁にこういうポスターが張られていました。

「糸がもつれたらすぐに職長を呼ぶこと。」

ある新人の職工が仕事に着いたが、すぐに糸は具合悪くもつれてしまいました。彼女が何とか解こうとすると、糸はますますもつれていくのでした。彼女は全く絶望的になり、長時間を費やした後、助けを呼びました。職長が来て、彼女になぜもっと早く彼を呼ばなかったのか尋ねました。彼女は自己弁護して言いました。

「わたしはベストを尽くしたのです」。

職長はほほえんで言った。

「よく覚えておきなさい。あなたにとってベストを尽くすことは、私を呼ぶことなのです。」

7月31日

私たちの友ラザロが眠っている。私は彼を起こしに行く。

(ヨハネ 11・11)

死とは単なる古めかしい庭の壁にある扉である

たそがれ時に、つぐみが鳴く時

柔らかな蝶番(ちょうつがい)をもって扉を静かに開く

鴨居に沿って緑の葉が茂り、光のかなたに静けさがある

疲れた足取りだが喜んでその敷居をまたぐ

心を騒がせるものは何もない

痛みを与えるものは何もない

死とは、単なる静かな扉である

そう、それは古い壁についている

ナンシー・バード・ターナー

イエスは、その友と共に、死の静かな扉を通られる。